

KIIBAO

夏 2020 だより

えなか鉄道で、おいでん!



銀色の道～小国から串原へ
「えなか歩き」してきたよ
パワースポット～中山神社の切り株
へぼ燻製に挑む
木を植えた男
えなか発! 世界に誇るへボ
クラシノウタ
始発に乗って終電で帰るよ
くりきん豚
グロフェス
「えなかつ歩」しよまいか

悩んで笑って
日々は過ぎてく
そういう私に
なりたいの

えなか鉄道恵南線へようこそ！

岐阜県東濃地方、恵那市南部（旧恵那郡南部）の明智・串原地域に通い始めて30年が過ぎました。私の第二のふるさとです。きっかけは、「へボ」クロズズメバチという蜂の方言です。この蜂の子を山野で探して採り、巣箱で育て、ごちそうとして食べる文化がこの地方にあります。これに関心をもったのがきっかけで地理学の仕事に就きました。串原は、育てた巣を取り出して大きさを競う「へボ祭」で知られ、名物へボ飯、へボ五平餅が人気です。会場には、刺されるのも覚悟で大勢の人々が集まり、海外からの訪問客も増えています。串原の山の上にあるハム工房「ゴーバル」。ネパール語で燃料、壁、肥料などさまざまに役立つ「牛糞」の意味です。山形からネパール生活を経て仕事をしたいと2組の夫婦がこの村に人づてにやってきました。村の豚を使って小さなハム工房が始まりました。やがて地元の人だけでなく各地から若者も集って賑やかな働く場になりました。その中の一人りょう君が、音楽バンド「マウンテンマウンテンズ」を結成。だれもがいつしよに演奏できるシンプルで陽気なメロディとノリ、楽しさに中ちよびり切なさも感じられる詞で老若男女に人気です。松本りょう君・あやのさんを中心に活動中。私もそのメンバー、下手な（へボな）パンジヨールなどで賑やかしています。

あやのさんは、子どもの頃からの夢のカフェを明知鉄道の小さな無人駅、野志駅そばにオープン。地元のおいしいちゃん、おばあちゃんにも愛されている手造り料理の素敵なお店です。遠方からもはるばる訪ねて来るお客さんも増えています。店の裏手には駅を出発して急勾配を上るディーゼルカーも窓からみられます。

野志駅の終点明智駅は養蚕で栄えた大正時代の面影を各所に残した町で「大正村」として観光地になっています。その中心の「大正村浪漫亭」の店長中村みはるさんは地域おこしに奮闘、さまざまなおみやげを作りだし、独特の愛らしいイラストのポップで売り込むアイディア全開レディです。

あやのさんのカフェを中心に、山の上のハム工房と大正村の町を結ぶ鉄道をモウソウしました。そして馴染んだ土地、盆地と隆起準平原のおりなす山と小さな平地の自然、里山と棚田、そこに繰



仲間、串原林業の大輔君も近くで伐採作業中です。急勾配の無人駅は「綾野駅」。カフェ「クラシヤ」はあやのさんの店そのままです。広場では「マウンテンマウンテンズ」のライブがにぎやかに始まりま

り広げられてきた暮らし、今の地域をつくる人々の活気、路線の延長の中に入れ込んでいきました。カフェに置けるよう、60×27センチと小さなものです。ここに登場するハム工房の名前は「KIBO」。ラオスで「フン虫が丸めた糞」です。ここは私の調査対象地です。何も無いようにみえる乾ききった水田の地下で育ちます。ゴーバルのネーミングに做って、水田を養い、幼虫はごちそうに、小さな虫ですが大地を耕し涵養していくものにあやかりました。小さな木造小屋はゴーバルの始まりであり、将来の夢でもありません。りょう君がハム作りにいそしんでいます。フランスバスケット地方の養豚にならった栗を食べて育つ豚は雪の中に放たれていても元気です。村の若い

した！列車に乗る人も眺めています。乗り込むか、聴いていこうか、どうしよう？まわりにはへボ捕りまっさい中のおじさんたち、家路につく子どもたち。大正村の駅は「美晴（みはる）」。江戸時代から続く町と大正時代の栄華が混在しています。中心は旧銀行を改装した観光センター「浪漫亭」。いろんな土産品が宣伝されて活気を呈しています。当地の名物「へボ」は屋台でも絶賛売り出し中。外国人もはるばる訪ねてきます。一昨年の朝ドラはこの地方が舞台でした。町外れには養蚕の面影を残す小さな祠、旧村役場を越えた峠には「糸引き乙女地蔵」も祀られています。当時「お蚕様」として大切にされ、峠を越えて女工たちが町へ働きにきていました。

小さなパン屋は、明知鉄道沿線の岩村町郊外の薪窯パン屋さんがモチーフ。ママテッククラブメンバー手造りの建物に手作りミニチュアパンが並びます。澄んだため池。こちらママテッククラブ・仲間共通の水です。串原でへボを追って入り込んだ山の中の小さなため池は透き通っていました。へビが大きなヒキガエルをくわえて泳いでいたのが記憶に残っています。ほとりに佇むのは、ディーキンさん。黒い人ですが、それ故にモウソウがくからみず。『イギリスを泳ぎまくる』（垂紀書房）の著者です。水のあるところどこでも泳ぐ、水面からみえる風景の細やかな雑草や風景世界の描写が魅力です。その近くには「行雲流水」と刻まれた墓石。制作中に建てた亡父の墓をその石（インバラブル）の破片をいたたいてここにも建てました。もう一つ「へボの神様」のお墓にはその方の戒名「慈蜂尚林居士」を。この地方には家の近傍や山中に墓が点在しています。それにあやかり縁ある人もここに祀りました。なかほどにある小さな社は「ひね狐祠」は獣害除けの神様です。ところどころに見える石は地元の銘石花崗岩の蛭川石です。本物を配して現実世界とつながります。

小さなジオラマですが、四季を入れ込みました。串原の新しい名所、しだれ花桃、田植え、へボ採り、雪景色など、四季を通じて魅力あるこの地の様子を入れ込むことができました。石仏群、郷の驛、へボ採り、獣害除けフェンスなど当地の歴史と今の営みも入れ込みました。小さな世界をお楽しみください。お世話になってきたみなさまに感謝申し上げます。

銀色の道

私は、山形県小国町で高校時代を過ごした。ここは、夏のブナ林はすばらしかった。しかし冬の雪はたいへんだった。全国でも有数の豪雪地帯で、一晩で屋根まで雪が積もることあった。2階の窓が出入り口だった。そんな冬の豪雪でも、定時にやってくる米坂線はすばらしかった。あの頃は蒸気機関車だった。遠くに汽笛が響き、やがてシュツシュと音が断続的に聞こえてくる。一列車はこの世界を遠くへつないでいるようだった。

「線路をたどれば世界にでられる。」

そして、ここへ来た。若い日、行く当てのないままに終点へ終点へと、そしてさらに終点へと乗り継いで、とうとうここに辿り着いた。

この支線は、地元串原村の人たちが総出で作ったそうだ。山の暮らしを学びに長野県の下栗に出かけた光俊さんが、そこで急斜面を走る鉄道を自分でそこに建設したという源吾さんに教えてもらったそう。いいものはすぐに自分たちでもやってしまう心意気がまさかここまでとは思わなかった。どうせ作るなら国鉄にも乗り入れできるのをつくるまいかと村人が資金も力も惜しみなく投じて建設したそう。その甲斐あって、ここから製品を出荷できる。

そんな村人たちが、何ができるかわからない自分を受け入れてくれた。「ここがいいと思ったから来てくれた。自分たちにもきつといいんだろう」と。村で始めていた養豚の肉を分けてもらい、ハムとソーセージ作りを手作りで始めた。

今では、豚を育て、製品を外に出すようになった。こんどはこちらが人を村に呼ぶ番だ。

若い仲間が主催するグロフェスも始まった。若い仲間グロリアのフェスのはずだったが、グローバルフェスと勘違いしたんだか、世界から、いろんなジ

ヤナルの人がいろんな楽器を携えてやってくるようになった。

村の名物へボを追ってやってきて、ここを気に入って住みつく外国人もあらわれた。いっしょにへボ追いもやっている。「ここには世界中から来られるし、ここから世界中どこへでもいけるよ!」という。セントレア空港に着きさえすれば、あとは電車に乗ってこれるからと、それで来ちゃうから不思議なもんだ。でも、前にはこの地区の松本と、長野県の松本とを間違えた人もいた。それでも、夜には到着した。温泉が好きになって毎日3時間入っているんだ。

冬は、生ハムの仕込みの季節。ここだからできるんだ。土地の水と空気とカビ。生きていることを実感できて楽しいよ。スムは雪だるまを作って遊んでいるけど。熟成にはいったらあとは自然に任せるしかないからね。

(石山 潔)



へんぴなところはイヤだと。夏には線路を伝って米坂まで行こうとしたんだ。だけどトンネルが狭くてね。ここに汽車が来たらいっかんの終わり。鉄橋も多くて。まるで「スタンド・バイ・ミー」のようだった。もちろん相棒はキヨシだよ。でもアイツはそんなことはいわないよね。結局高校卒業まで小国にいたよ。そのうちにラオスへいったんだ。「タマサ」って言葉にあげられて村にも住んだんだ。そこは「水牛の森」村だった。田んぼの中の大きな菩提樹の下でいつも昼寝をしていたよ。ときどきコブラも現れて、ずっと寝たふりしてたんだ。稲刈りが終わり、牛や水牛が藁を食べ尽くすと田んぼの土が露わになって、乾季なんでもどんどん乾いていく。もう何もなくなっちゃって思っていたんだ。そうしたら村の子どもが「ごちそうを採りに行こう」って田んぼへ連れて行ってくれたんだよ。肘より深く穴を掘って、そこからテニスボールほどの糞玉をいくつも取り出して、中を割ると真っ白なフン虫のサナギが出てきたんだ。このシチューは最高においしかったな。水牛の糞を丸めて、土の中に入れて卵を産み幼虫が育つ。糞は田んぼの養分にもなる。不毛の地だと思っていたのは自分だけ。そこには生命の循環があったんだ。そして帰国して、中央線に乗ったらそこにキヨシがいたんだ。そのままいっしょにえなか鉄道に乗って来ちゃったよ。いっしょに工房をやることになったんだ。工房の名前「KIBAO」はラオス語で水牛糞虫の糞からとったんだ。何も無いようにみえてもそこには豊かなものがある。そして豊かに大地を作っていく営みがある。キヨシとはいつまで続くかわからないけど、ここが続く限りいっしょだよ。

(井本 進)



ススムの好物。カメムシ串焼きはビールがススム



「えなか歩き」してきたよ

パワースポット 中山神社の切り株



ジンバブエからヘボと農業を視察に来た3人連れ。神社の参道にあるヒノキの大きな切り株を見つけると、寝転んだり輪になってお祈りしたり。自然の大きな力を感じたようです。自然と先祖を大事にする人たち、音楽も大好きです。キーバオで食事をともし、たらふく肉を食べて、しばし歌と踊りのセッションになりました。おいしい料理に彼らたち、棚田や急斜面の暮らしをみて、「自分たちのところは土地も広くて平坦で、なんて幸せなんだろう。」はるばる来た甲斐がありましたね。



・中山神社 松本駅から徒歩45分

石仏の古道



林の中に石仏があるのをご存知ですか？今は草むしりしてわかりづらいのですが、道路や草むした古道沿いにいくつも並んでいます。今となつてはその由来の不明なものがおおいのですが、人の往来が古くからあったことの証です。車だ通り過ぎてしましますが、ゆっくり歩いて見つけてみましょう。
・綾乃駅から徒歩30分

へぼ燻製に挑む明さあ



「キーバオの燻製は人気があつてよく売れるとるで、村でとれたスズメバチもいっしょ

に売れんかなと思つて。空いた時間に作らせてもらったんだ。なんとかならんかと思つたらなんとかなつた。ホクホクでどえらいことうまい。俺は飲めんでわからんが、ウイスキーとよく合うそうだ。地元の人たちあは生へボのほうが日本酒には合うとみえて食わんが、外の人にアピールするのが目的だな。昔は冬には炭焼きで、木を伐つて割ると中から白い虫がでてきてな。これは焚き火で焼くとひゅーんと伸びて甘くて香ばしくておいしかったもんだ。これを燻製にするとええかもしれんな。」

二つのお墓

この地域には個別のお墓があちこちにみられます。

へボの神様 慈蜂尚林居士

へボを初夏の小さいうちに採つて、我が子のように育て、新女王を大切に守つて翌春に野に放ち、新しい巣作りを期待する。



三〇年かけて巣箱も考案した。へボ界を革新した三宅尚己さん。お墓の回りに、毎年へボが巣を作るとか。でもこの巣はだれもとりません。たくさんの新しい女王がでていきます。尚己さんは、各地に出かけ、ご縁を広げました。そのおかげでこちらの人たちも安気にへボ採りに出かけることができました。それは、キーバオのふるさと小国町にも。実はここにもへボはいたんです。こちらではスナコバチと呼ばれていました。巣を育てる人たちも現れました。

市之倉のおじいちゃん

もう一つのお墓。行雲流水と刻まれています。この石は南アフリカのインパラブルー。青い結晶がキラリと光ります。へボがご縁で南アフリカの人たちも串原を訪れるようになりました。旅好きだった市之倉のおじいちゃん。へボの名人でもありました。へボのご縁でお墓もここに。



きんか屋の名物

この地方の名物、春の朴葉餅、夏の若鮎、秋の栗きんとん、桃の節句のからすみなど、長崎より四五〇年伝来の「かすてら」も人気。よもぎ餅は瑞々しく香り高いヨモギで好評。



この店名の由来、キンカ鳥のはっちゃんが店の軒先に！クラシアまでスズメといっしょに飛んでいったこともあるそうです。呼んだら戻ってきたとか。和菓子屋さんですが、店主が大のへぼ好き。自ら育てたへぼを手抜きした蜂の子を冷凍にして販売中。その友人が付知町の建具職人早川利廣さん。『季節のごちそう ハチゴはん』にも登場します。特製の巣箱は毎年新型モデルになっています。店内の造作も什器も手がけています。最近は楽器まで手がけるように。マウンテンマウンテンズのバンジョーも改造してもらいました。神社仏閣・住宅建具の職人が手がけるひと味違って魂が入っています。

薪窯。パン屋さん Entotsu



「虫を食べたい」とやってきて、この地が好きになって移住したメグさんが始めた手作りパンとアクセサリーの店。名古屋名物小倉トーストも正調。昨年東京巢鴨での展示も大好評でしたね。

キイバオ BAZAR もチェック!



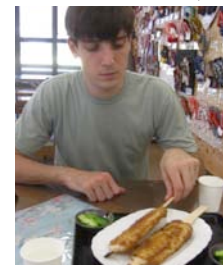
錦華醸造

地味嗜・たまり、えなかの地酒取扱い。やまやまエールもここで買えます。五平餅のタレもいろいろ使えて便利。



ハロー サバイディー グロフェス!

地元グループ、全国の仲間たち、そして世界からも。今年は Jacob Sharp and Miso が来日！今全米で人気のグループ。ジェイコブ君は実は串原でライブをやったのをご存じですか？浪漫亭店長のみはるさんが「えー男だがね」といったおかげで、いきなりコンサート。おばあちゃんたちから絶大な人気を得て、今やアメリカでライブ会場はどこもソールドアウト！



今年の予定

マウンテン・マウンテンズ、Field of Frontiers、Honeybee Heart、Kotorine、へぼボーイズ他。クラシヤ広場にて、10時スタート、朝までセッション。キャンプもできます



あやの&りょう「クラシノウタ」好評発売中!

えなかつ発
世界が注目！
へぼ文化
Say Hebo love!



地元の名物へぼ。えなかつ鉄道沿線でもさかんです。「へぼ」とは、スズメバチの仲間、クロスズメバチ・シダクロスズメバチのこの地方の方言です。国際的な映画 Bugs' feedにも登場し、BBC 放送でもレポートされて世界的に有名になりました。今や、世界で昆虫食が注目されていますが、第一回世界昆虫食会議ではえなかつのへぼ五平餅が振る舞われ、大好評でした。

スズメバチだからといって恐れるのではなく、一匹を追って山野を駆け、一ヶ月に何万円もかけてエサを与えて大きく育てる、この蜂の子は煮付けや混ぜご飯など秋のごちそうになり、探す・育てる・味わう楽しさに満ちているからです。この地方もへぼ文化の地です。体長一センチほど、巣は山野の地中にあるので、簡単には見つかりません。それを探することを「へぼ追い（ほい）」といいます。初夏になると、小さな巣を求めて、魚や肉をエサにハタラクバチをおびき寄せます。ハチがエサと巣を往復するようになつたら、小さな肉団子に目印をつけたものを差し出して持たせます。飛んでいく後を山越え谷越え追いかけて、巣を突き止めます。これを自宅に慎重に持ち帰り、巣箱に入れます。毎日エサを与え、外敵から守り、大切に育てて秋に収穫します。また秋には、自然に大きくなったものを同じように追いかけて巣を探します。

秋には沿線の土手でへぼ追いをするおじさんたちもみかけられます。追うのに一生懸命になって、ハチだけでなく列車にも気をつけてくださいね。飼



育巣箱もあちこちに置かれています。地元の小学生の俳句がコンクールで入賞し、綾乃駅の向かいに掲げられているのが目にとまります。おじさんたちの誇りです。

この文化を次世代に継承し、舞台となる里山の自然を守ろうと、中部地方各地に誕生した愛好会が集まって全国地蜂連合会を結成し、情報交換・技術の向上と交流をはかっています。高齢化・過疎化にめげず、地域を超えて有志が活動を進めています

木根里の驛では、へぼ文化の説明とともに、巣を飼育していて、間近に観察することができます。大きく育てて秋にはみんなで「へぼ抜き」をやって、蜂の子のご飯を炊いたり、へぼ五平餅を作ったりして楽しめます。交尾するへぼを愛でながらへぼ談義の「Hebo Cafe」、女性にも人気です。へぼ名人の一年を撮影した写真絵本『季節のごちそう ハチごはん』（ほるぷ出版）は全国読書感想文コンクール課題図書にも選ばれました。都会の若い世代の参加や新しい愛好会も増えてきました。へぼ文化の発信の地になっています。



大正村浪漫亭では、へぼ五平餅屋台も。高級なお菓子「市品」や自宅で作るさとの味を楽しめる「へぼ飯の素」や煮付瓶詰めも販売。きんか屋では、ご主人が育てたへぼの抜き身も販売しています。みなさんもぜひ食べてみて。



クラシノウタ

始発に乗って、最終で帰るよ。

クラシヤ綾乃さん

念願の夢がかなってオープンして二年。すっかり地元根付いて、近所のおいちゃんやおばあちゃんも常連になってくれました。お昼のプレートランチと地元の野菜たっぷり、もちろんキーバオのソーセージや肉も使った料理は人気。名古屋方面からも若い女性が訪ねてきます。窓からは一時間に二本だけ、窓から汽車が走って行くのを見えるので、全国からマニアの人たちもやって来ます。隣の空き地はライブスペースにしました。りょうちゃんとのグループ、マウンテンマウンテンズが全国に呼んでもらっているんで、ここでもフェスをやって、全国から呼ぶんだよ。えなか鉄道でやってくるから、将来は車内でもライブをやりたいな。もちろん、クラシヤ特製のランチおべんとう付きで！



くりきん豚

ここは、昔から栗の産地。でも穫りきれないのが地面に落ちてしまっていた。これを豚に食わせてみたらと、キーバオに視察に来た、フランス・バスクの豚飼、ピエール・オティザさんが提案してくれたんだ。フランスのバスク豚は栗で育てているから。そうしたら良い香りがする甘い肉になったんだ。でもその秘訣は、栗でなく中に入っているクリムシにあるんじゃないかな。



てるてる農場

某大手自動車メーカーから地元に戻ってきました。若い発想で農作物を作っています。奥さんグループが手がけるトマト製品も新鮮でおいしいよ。



木を植えた男 明さあの挑戦

一年中里を賑やかに。勝負がはやり」と自腹をきって畑に苗木を植えた明さあの努力が実りました。館長は三宅明さん（八〇）。花桃の里づくりにいそしんでいます。なにかをやるには「若者、馬鹿者、よそ者」が大事だと。また、「なんとでもなる」も集まる地元の人たちの合い言葉。「あんじやない」英語 Take it easy ですね。でも、ほとんど先のことを考えて進んでしまうので、奥さんには「何やってるの」といわれっぱなしのようです。つねに一歩先をみて動く明さあ。こんどは何を企画するでしょうか？



朴葉の樹

どこの家にも一本は植わっているのが、朴の木。新緑の大きな葉っぱは、朴葉寿司、朴葉餅に。朴葉を使った包み焼きもおいしいですよ。



「えなかつ歩」しよまいか！

美晴駅前に案内地図ができています。標識を頼りに訪ね歩いてみましょう。美晴駅、綾野駅、松本駅周辺の見どころを紹介します。



大正村資料館

大正時代に作られた当時のモダン様式の美晴村役場。現在は大正村資料館として、大正時代の意気込みを紹介しています。大正ロマンとともに進取の



気概もくみとれます。

松本綾乃さんの大正琴コンサートが毎月開催。ポップだけでなく懐かしく、元氣と幸せをもたらえる音楽！「えなかつ鉄道と草莽の精神」では、東海道と中山道接続に奔走した明治の志を受け継いで、えなかつ鉄道を敷いた当時の地元の人々の意気込みがわかります。「こんにやくと寒天の歴史」では、山間の村の海や各地とのつながりがわかります。

旧錦華銀行・大正村浪漫亭



製糸業で栄えた栄華の近代遺産が観光の拠点に変身！アイデアあふれる店長が独特のイラストで紹介する地元産品をどうぞ。朝ドラで大人気になった「半分、青い」シリーズに今年の明智光秀ものも盛りだくさん。
・午前9〜午後5時水曜定休



蚕霊社

大正時代、村の経済を支えたのは養蚕でした。大切なので「お蚕様」と呼ばれ、祀られていました。蚕のさなぎはおいしいおかずにもなりました。

木根 郷の驛



チーズと合わせてクラッカー載せも美味です

町を抜けて美晴盆地の坂を登って越えた先、えなかつ鉄道を跨線橋で渡った先にある木根集落に村の古民家を移築した郷土館。伝統文化を伝えるとともに、地域のコミュニケーションの場になっています。旧くて新しい「在来知識」の再発見と継承の場。この地の文化、へボの写真展開催中。読書感想文コンクールも募集中です。東京地蜂クラブも協賛して、広いつながりがわかります。最近ではへボカフェもやっています。へボガールが大活躍しています。串原のへぼと世界の昆虫食のポスターが展示されています。世界に誇る文化ですね。
・不定休 閉まっているときは三宅明さんにお問い合わせください。
・美晴駅より徒歩30分



綾野地区

綾野駅から徒歩で。

日本百農村景観に選定された日本の山里のふるさとを満喫できるところです。山辺の古道から見下ろす四季おりおりの自然と人が織りなす棚田と里山の景色はいつまでも見飽きません。



ひね狐祠

恵北線沿線と同じくここにも「ひね狐」信仰があります。近年、鹿やイノシシが里に出没するようになり、被害が出ています。ひね狐の伝説もあるので、どうか？ 獣害転じて災いから護ってくれる神様として参拝者が増えています。

すが沼

水があれば世界とつながる謎の人、ディーキンさんがいます。『イギリスを泳ぎまくる』（亜紀書房）に登場。山から浸みだした水が水田を潤します。きれいな水と盆地の寒暖差が生み出すおいしい米の源。

檜倉

綾野駅の向かいにそびえ立つ、ひのきの樹皮模様のような岩。削られた面は年輪のような縞模様が見えて。まるで木のようにです。

岩倉



松本駅前に、この地方の銘石、花崗岩の蛭川石の露頭がみられます。キーバオのヤギたちの遊び場。カモシカが岩の頂上にいることも。じつとこちらを伺っています。キーバオの新しい仲間になるかな？

キーバオ時報

- 2018 1 恵南線建設開始
- 2018 4 クラシヤ開店
- 2018 5 愛岐トンネルでコンサート
- 2018 8 カフェ・カレドニアでコンサート
- 2018 9 ママテッククラブスタート
- 2019 1 一年以上つかず
- 2019 5 木を生やし、あかりを灯し・田植え
- 2019 6 四季を織り込むことに決定
- 2019 7 巢鴨・さかつうギャラリーで展示
- 2019 8 尚己さんのお墓が里の驛前に建立
- 2019 9 ゴーバルでお披露目
- 2020 1 明智駅待合室に展示
- 2020 5 「地理」3月号掲載
- 2020 5 さかつうギャラリーでM&O展示





キーバオ・アルバム



KIIBAO BAZAR



・キーバオ製品
肉・ハム・ソーセージは、GOBARサイトで



・Pick up

子安建具店から

すのこベッド 安眠できる、腰痛がよくなったと絶賛！2つに折りたたんで布団干しにも。安心長持ちの国産桐材使用。オプションで台も。ベッドの高さになり、下は物入れに。

へぼ巣箱 毎年の最新型 一家に1つ。庭にもインテリアにも似合います。へぼの通う様子はいつまでも見飽きません。防犯にも！

什器各種 無垢板の組み立て式 職人技のピッタリ・ハメコミがクール

くりぬき額縁 A4サイズ、B5サイズ。
木目がきれいな、くりぬいた板は置き台にどうぞ。

トンコリ アイヌの伝統楽器が職人の手で蘇りました

組み立て式カホン ひのき製 6枚の板に分解・組み立て簡単
重低音が響きます。桐製もあります。

車両展示台 ケヤキ・ひのき製、サイズ応談。
N、HO、13mmレール幅に溝切り。

Entotsu kino_me から

パンのアクセサリいろいろ
https://www.instagram.com/kino__me/

・へぼ・セレクト

HEBO 高級なお酒に合います。1つまみグラス1杯で芳醇なうまみが余韻を生み出し、至福のひとつとき。えなかの景色が広がります。

へぼごはんの素 家族団らんでどうぞ。えなかの自然をおいしくお手軽に。

***大正村浪漫亭でも販売！**

藤岡の蜂蜜

黄金の輝きと極上の自然の甘美味。
「高杉さん家のおべんとう」にも登場！

へぼの本

『季節のごちそう はちごはん』（ほるぷ出版）

『虫はごちそう！』（小峰書店）

『昆虫食先進国ニッポン』（亜紀書房）

『虫食む人々の暮らし』（NHK出版）

